

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要票

作成日 平成 20 年 11 月 14 日

【評価実施概要】

事業所番号	3690300037
法人名	社会福祉法人 愛心会
事業所名	グループホーム 青空
所在地	徳島県小松島市中田町字新開52番地 (電話) 0885-35-1355

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 11 月 10 日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 28 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 6 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤:13人、非常勤:1人、常勤換算:ユニット1 6.5人、ユニット2 7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000~36,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費:6,000円、その他:実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 28 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	6 名	要介護2	8 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.2 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳島ロイヤル病院 四国セント歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の周囲には公園や遊歩道、大型スーパー、喫茶店、日赤病院、交番などがある。また交通の便もよく周囲の環境を活かして利用者が楽しみながら外出できるよう積極的な支援が行われている。ホーム内は明るく清潔であり、リビングからは桜の木や街路樹が眺められ、季節の移ろいを感じられる。利用者や職員はともに明るく笑顔で穏やかに過ごされている。職員は理念である「ぬくもりのある介護」を大切に、利用者へ寄りそった支援を実践している。また管理者は職員の育成に力を入れ、研修などに参加する機会を多く確保し、サービスの質の向上に取り組んでいる。特に救急救命法については全職員が受講し、ホーム内でも2か月に1回講習を実施している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題である「評価の意義の理解と活用」、「運営推進会議を活かした取り組み」、「家族等への報告」、「チームでつくる利用者本位の介護計画」、「鍵をかけたケアの実践」については全て改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員が分担して作成し、管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催され、利用者や家族、老人会会長、民生委員、市職員、近隣住民、管理者、職員で構成されている。会議内容は行事予定や活動状況、研修の報告、地域行事についての情報交換などである。会議録も作成され、職員の回覧印・サインがある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回の家族会や面会時には気軽に意見などを言ってもらえるよう雰囲気づくり心がけ、話を聞く機会をつくっている。また玄関には意見箱を設置したり、苦情についての公的相談窓口のポスターも掲示するなどしている。要望等が出された時には早期に運営に反映させられるよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	老人会による踊りのボランティアや事業所の誕生日会に保育園児の来訪などがある。ホームからも保育園へ出かけるなど、お互いに行き来して交流を図っている。また地域の夏祭りに参加したり、老人会の活動(アルミ缶や段ボールの回収)に協力するなど地域との交流を積極的に行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりに寄り添い、ぬくもりのある介護支援を目指し、地域の中で継続して暮らせるよう職員間で話し合い、理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼や申し送りノート、月1回のミーティング時などを活用し、管理者と職員は理念の内容が実施できているかについて確認しあいながら日々の支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会による踊りのボランティアや事業所の誕生会に保育園児の来訪などがある。ホームからも保育園へ出かけるなど、お互いに行き来して交流を図っている。また地域の夏祭りに参加したり、老人会の活動(アルミ缶や段ボールの回収)に協力するなど地域との交流を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、前回評価結果の課題や自己評価について全職員で取り組んでいる。前回評価での課題は全て改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催され、利用者や家族、老人会会長、民生委員、市職員、近隣住民、管理者、職員で構成されている。会議内容は行事予定や活動状況、研修の報告、地域行事についての情報交換などである。会議録も作成され、職員の回覧印・サインがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上で困ったことやわからないことがあれば市町村担当課へ直接出向き相談にのってもらったり、情報提供やアドバイスをもらうなどしてサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月『青空通信』を発行し、利用者の日々の暮らしぶりや健康状態について報告している。また利用者や家族の状況に応じて随時電話などで連絡している。金銭管理は出納帳のコピーを毎月送付し、家族の面会時に確認印・サインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会や面会時には気軽に意見などを言ってもらえるよう雰囲気づくりに心がけ、話を聞く機会をつくっている。また玄関には意見箱を設置したり苦情についての公的相談窓口のポスターも掲示するなどしている。要望等が出されたときは早期に運営に反映させられるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にとどめ、日頃から行事や外出等の支援はユニット合同で実施し、顔なじみの関係ができるよう配慮している。やむを得ず離職などがある場合には十分説明し、利用者に影響が出ないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て外部研修などを積極的に受講できるよう配慮している。また事業所内で研修を実施したり、新規採用時には必ず救急講習を受講できるよう配慮している。研修後は報告書を回覧し、職員の確認印・サインもある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内5か所のグループホームと情報交換をしている。また行事を通じて交流したり、相互訪問したりしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には事前に自宅などに出向いて話を聞くなどして馴染みの関係をつくっている。また利用者や家族にホームを見学してもらったり、入居後も積極的に家族に面会に来てもらえるようお願いするなど、本人が徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に調理や洗濯物たたみ、後片付け、食器洗い等できる事を手伝ってもらい、お互いに感謝の言葉をかけ合いながら共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を本人に直接聞いたり、コミュニケーションを図る中で把握するよう努めている。意向の把握が困難な場合には家族などと相談し、利用者本位の支援ができるよう検討している。また今年度7月から介護相談員を受け入れ、利用者とホームの橋渡しをしてもらい、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の希望、面会時や電話連絡で得た家族からの情報や要望、職員の日々の気づきや意見などを取り入れ、利用者本位となるよう介護計画を作成している。介護計画には本人・家族の確認印・サインもある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、また状態変化のある場合に随時見直しを行い、本人の希望や家族の意見など実情に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制がとられており、医療面で安心感が確保されている。また家族がホームで宿泊したり、利用者の帰宅(外泊)の支援や通院介助を行うなど、家族の状況や要望に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。受診時には家族に付き添いを依頼し、管理者も同行して情報提供を行うなど、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合や終末期に向けた方針を家族等と話し合い、共有している。また長期入所されている利用者とは随時話し合い、状態に即した方針を共有するよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の生活の中での役割分担のお願いや入浴時の言葉かけなどは利用者を尊重した対応を行っている。個人情報の取り扱い、プライバシー保護については運営規程や契約書などに明記され、取扱いが徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前の生活歴や希望に応じて朝食の時間を調整してご飯をパンに変更したり、希望にそったタイミングで入浴を行うなど工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みのメニューを取り入れたり、準備や後片付けを職員と一緒にいたりしている。また職員も利用者と同じテーブルにつき、楽しい雰囲気の中で食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制であり、ゆっくり時間をとって楽しめるよう配慮されている。ほとんどの人は1日おきであるが、汚れた時などはその都度入浴している。入浴を拒む方には声かけの方法やタイミングを変えたり、足浴やバスタオルをかけてシャワーをするなど柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は調理や後片付け、食器洗いなど利用者ができる範囲で役割をもって生活できるよう支援している。また習字やフラワーアレンジなどの趣味や散歩、外食、病院の帰りに寄り道するなど楽しみごとや気晴らしの支援も利用者の生活歴に合わせて行われている。たばこも職員の付き添いのもと喫煙場所で楽しまれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や近くの喫茶店への外出、コスモスや菊を見に行ったり、近くの遊歩道へ散歩に出かけるなど車椅子利用者の方も出かけた時に出かけられるよう支援している。また、公共交通機関を利用した外出についても支援している。行事で外出する時は家族にも声をかけており、参加も多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の様子を察知し、見守り支援の中で自由に出入りできる暮らしを支援し、日中玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2か月に1回、救急講習と合わせて利用者と一緒に避難訓練と消火器の使い方を訓練している。また消防署の協力も得て夜間を想定した避難訓練も実施している。避難訓練時は近隣の協力が得られるよう参加を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分摂取量は記録して把握し、おやつや入浴後、就寝前などにも水分確保できるよう支援している。献立は事業所内の職員が作り、栄養が偏らないよう協力病院の管理栄養士の助言をもらっている。またキザミ食など形状を一人ひとりの状態に合わせ、摂取しやすいよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔で明るく整理整頓されている。廊下には行事の写真を掲示したり、リビングにソファやテレビを設置するなど、くつろげるスペースを確保している。またリビングには大きな窓があり、すぐ近くに桜の木などが眺められ季節の移ろいが楽しめる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、寝具(リース)は事業所の備え付けであるが、希望があれば使い慣れたものを持ち込めるようになっている。仏壇やソファ、冷蔵庫など使い慣れたものや本人の希望のものを持ち込み居心地よく過ごせるよう支援している。		